

観光の現状

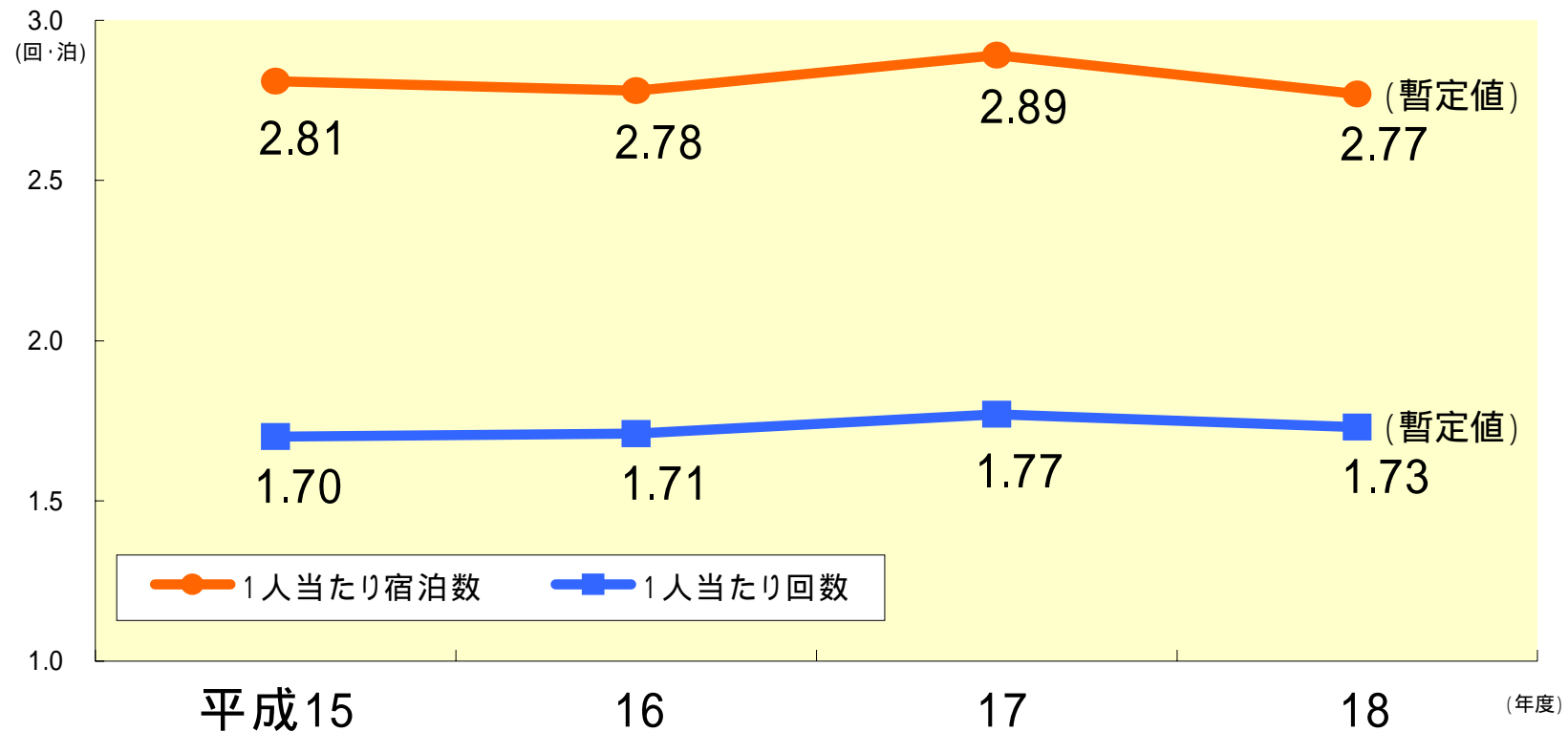
【観光の動向】

平成19年7月23日

九州物語委員会

国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数の推移

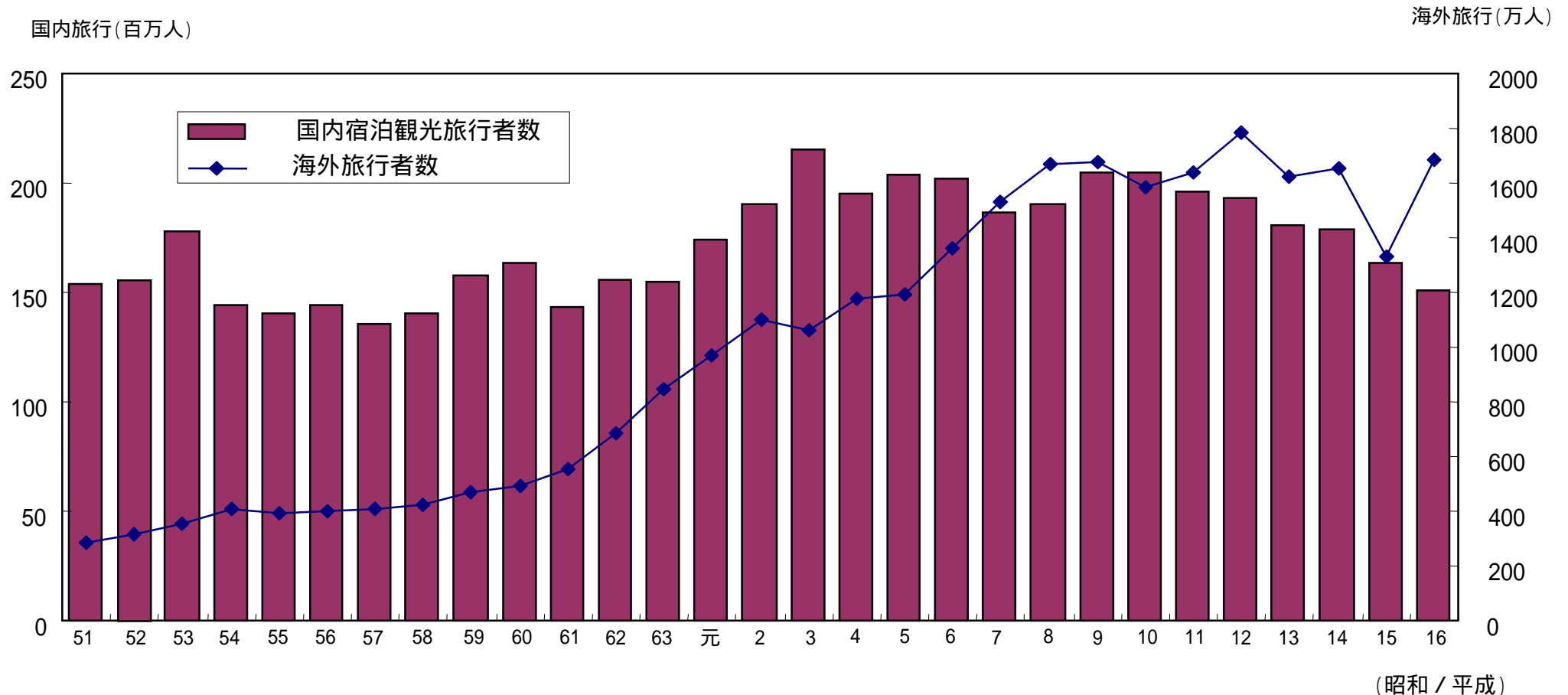
宿泊数、旅行回数ともに横ばい



資料) 国土交通省「旅行・観光消費動向調査」

国内宿泊観光旅行者数の推移

海外旅行が堅調に増加する一方、国内旅行は平成3年をピークに減少傾向



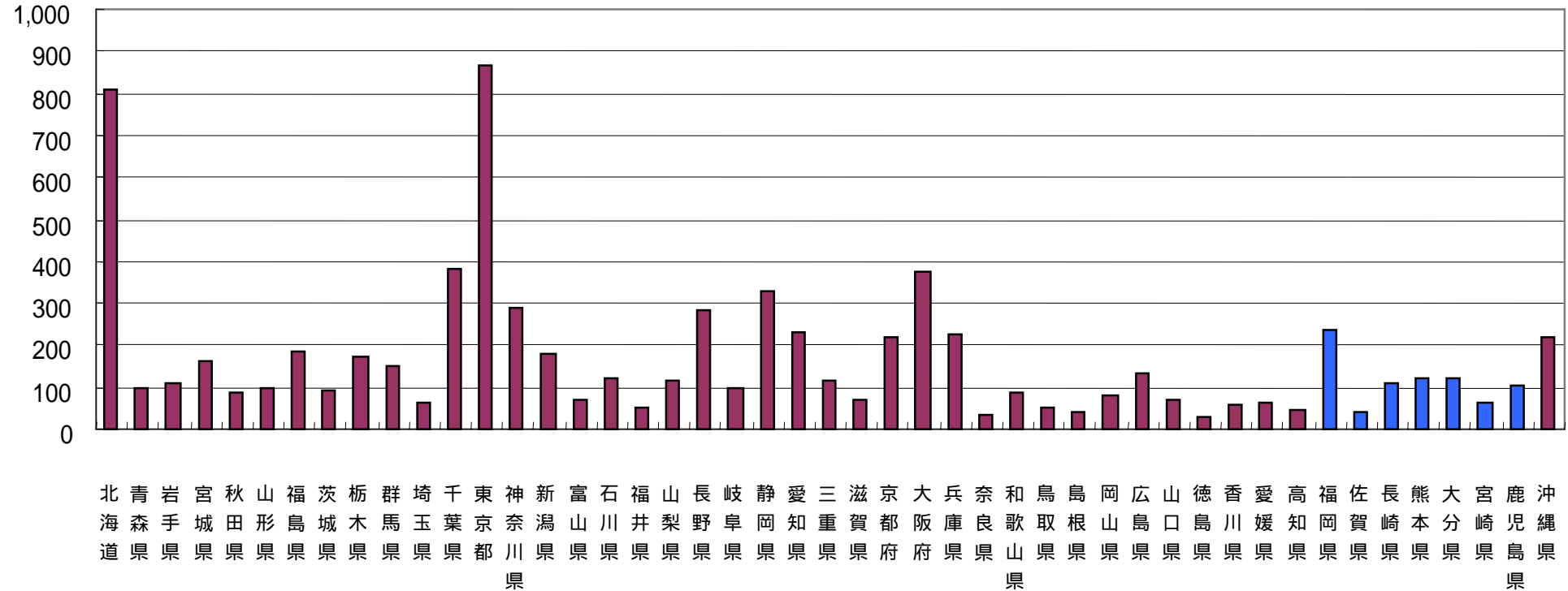
資料) JATA数字が語る旅行業平成18年(国内旅行:国土交通省、海外旅行:法務省)

都道府県別宿泊者数

東京都、北海道、千葉県の上位3都道府県で全体の1 / 4以上

(万人泊)

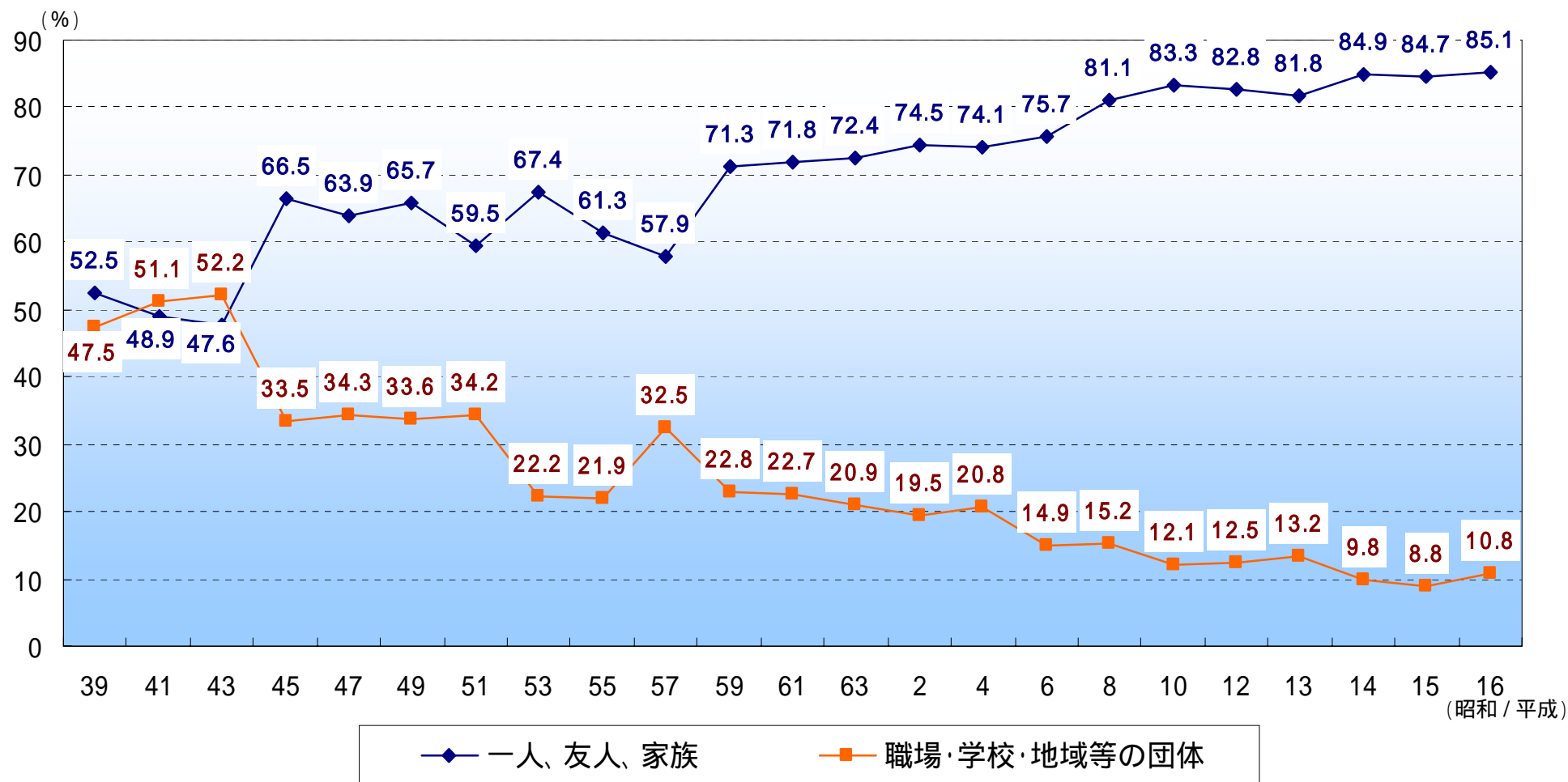
都道府県別延べ宿泊者数 (平成18年6月～8月)



注) 国土交通省「宿泊旅行統計調査第二次予備調査」による。

団体・個人等の旅行形態の動向

昭和40年代半ばに団体旅行と個人・小グループ旅行の割合が逆転し、個人・小グループが中心となる。

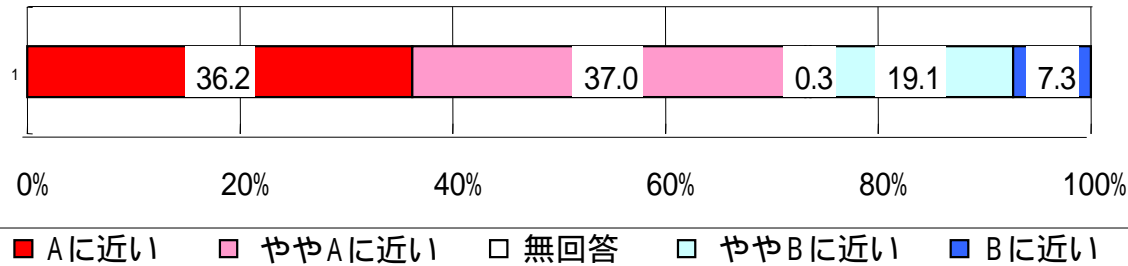


資料) 日本観光協会「観光の実態と志向」

旅行者ニーズの動向

旅行先の選択では、有名な観光名所よりも自らのライフスタイルを重視する傾向であり、土地の人との交流を望む旅行者が過半を占めている等「交流型」のニーズも高い。

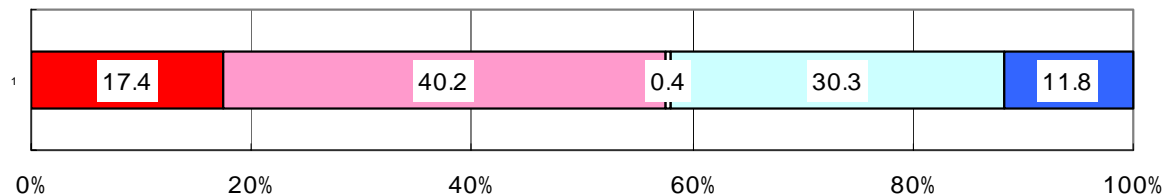
旅行先の選び方



A：旅の訪問先は、自分の関心や興味を中心に選ぶ

B：旅の訪問先は、有名な観光名所や施設を中心に選ぶ

土地の人との交流



A：旅先ではなるべく土地の人との会話や交流を楽しみたい

B：旅先ではなるべく仲間うちだけで楽しみたい

資料) レジャー白書平成16年

団塊世代の退職後の年間旅行増加回数

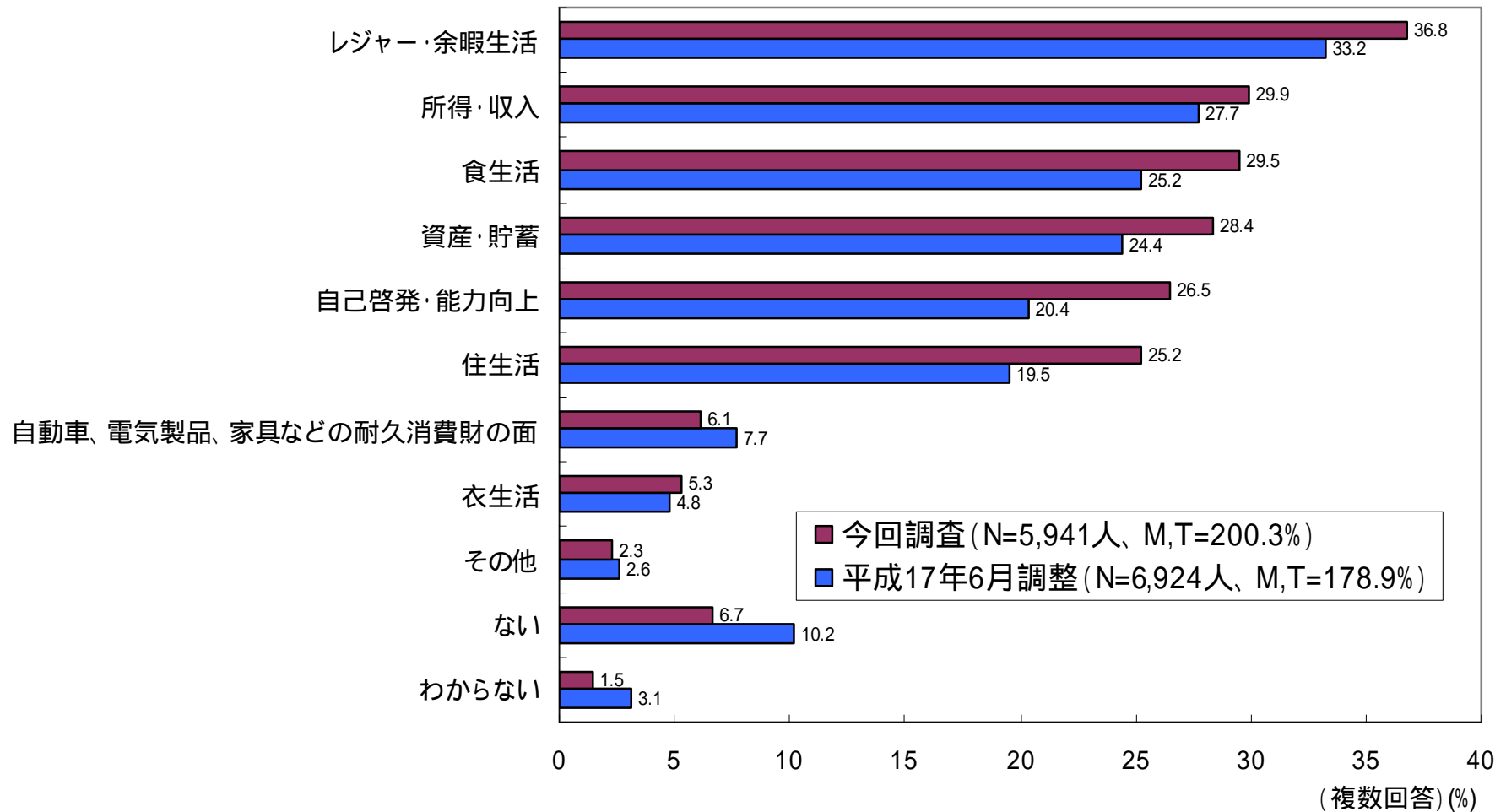
団塊の世代は、退職後、現在の退職世代より、日帰り旅行、宿泊国内旅行ともに増加すると想定。

		退職世代男性		退職世代女性	
			増加		増加
日帰り旅行	現在の60歳代前半の旅行回数	3.15	1.58	2.30	1.68
	団塊世代の10年後の旅行希望回数	4.73		3.98	
宿泊国内旅行	現在の60歳代前半の旅行回数	2.11	0.50	1.81	0.73
	団塊世代の10年後の旅行希望回数	2.61		2.54	

注) (財)社会経済生活性本部「レジャー白書平成18年」より国土交通省作成。

今後の生活の力点

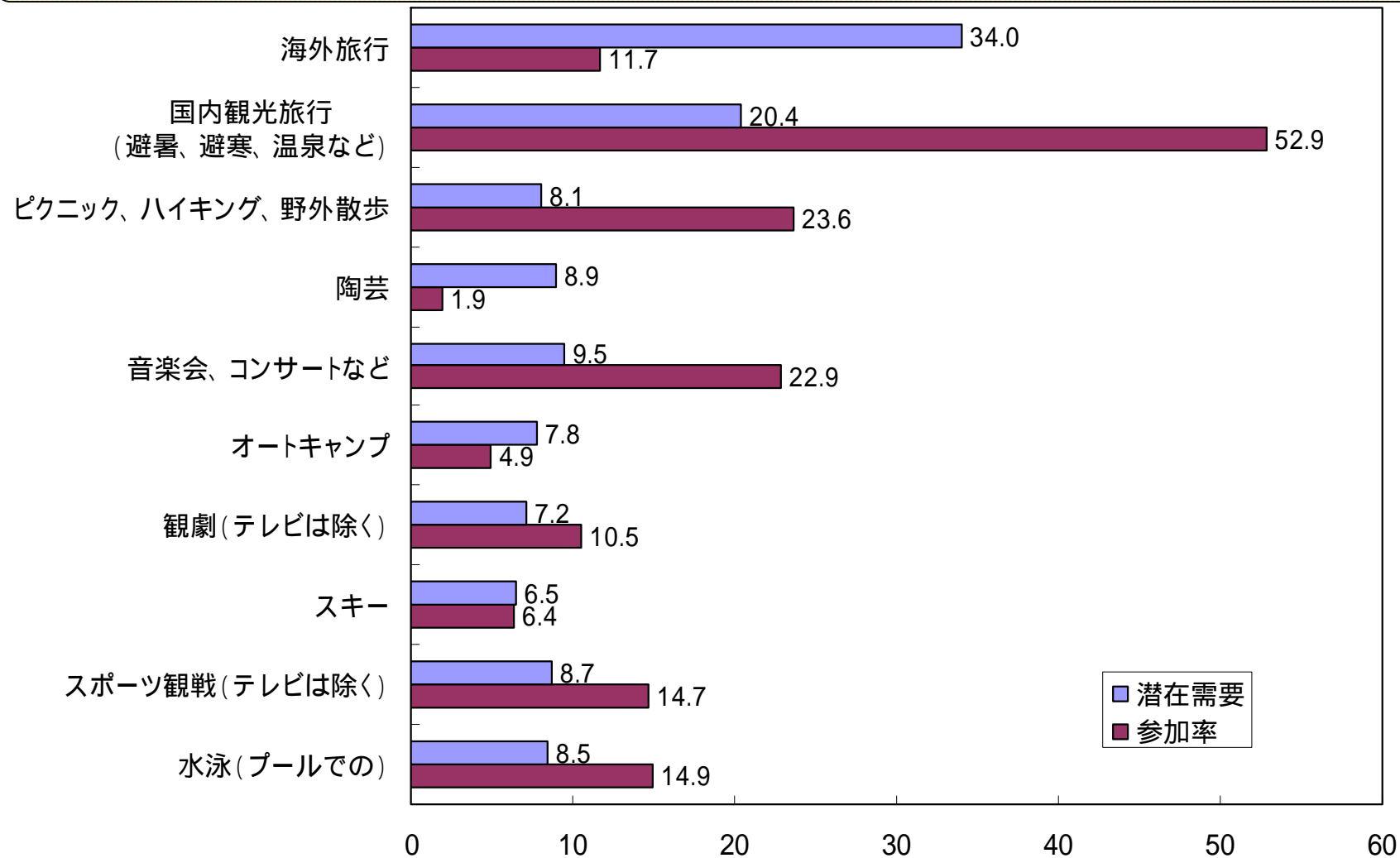
今後の生活で力点をおきたい分野は「レジャー・余暇生活」を挙げるものが最も多い。



注) 内閣府大臣官房政府広報室「国民生活に関する世論調査」(平成18年10月)による。

余暇活動の潜在需要

旅行に対する潜在需要は余暇活動の中で高い。

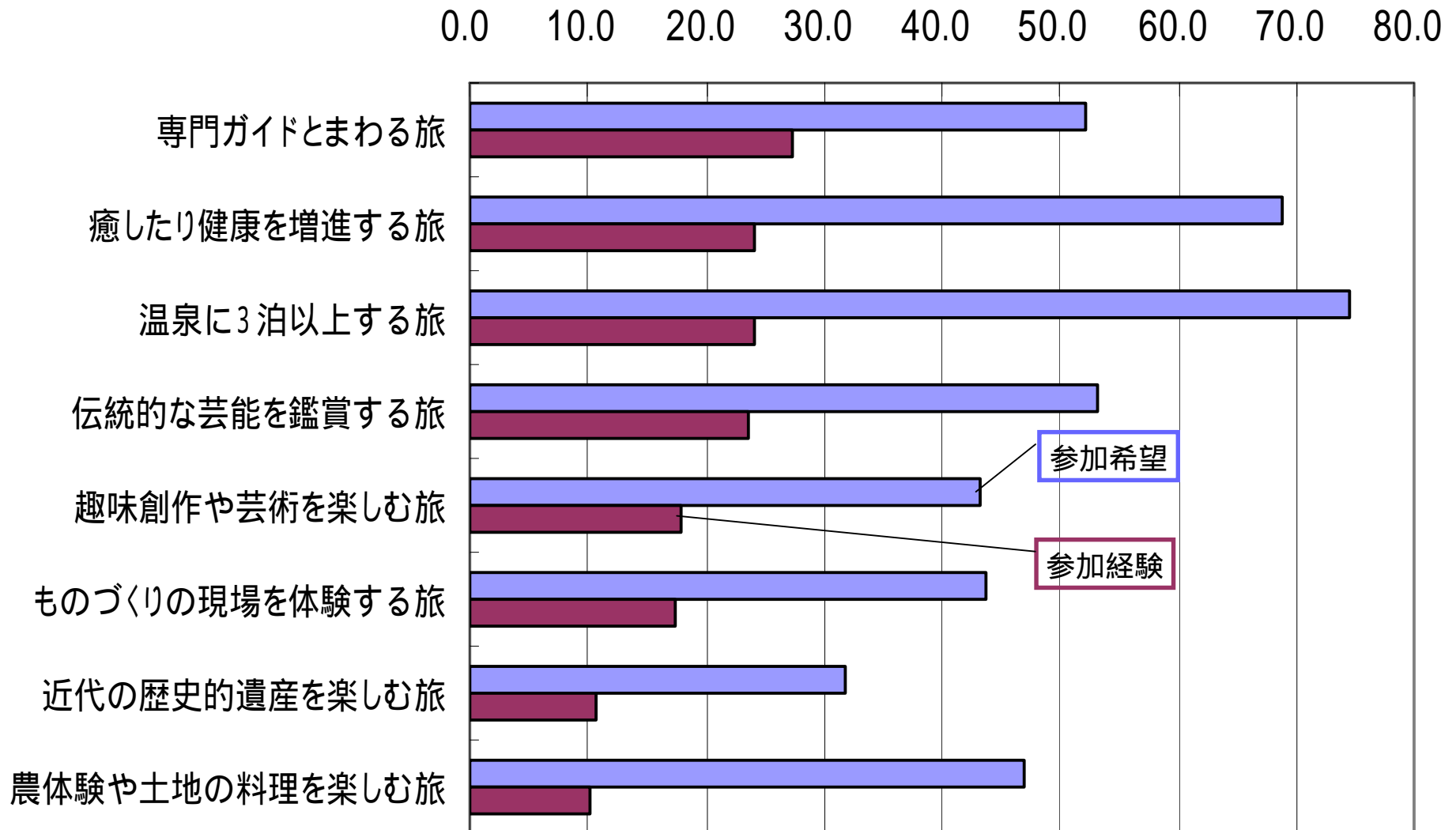


資料) (財) 社会経済生産本部「レジャー白書平成18年」による。

(%)

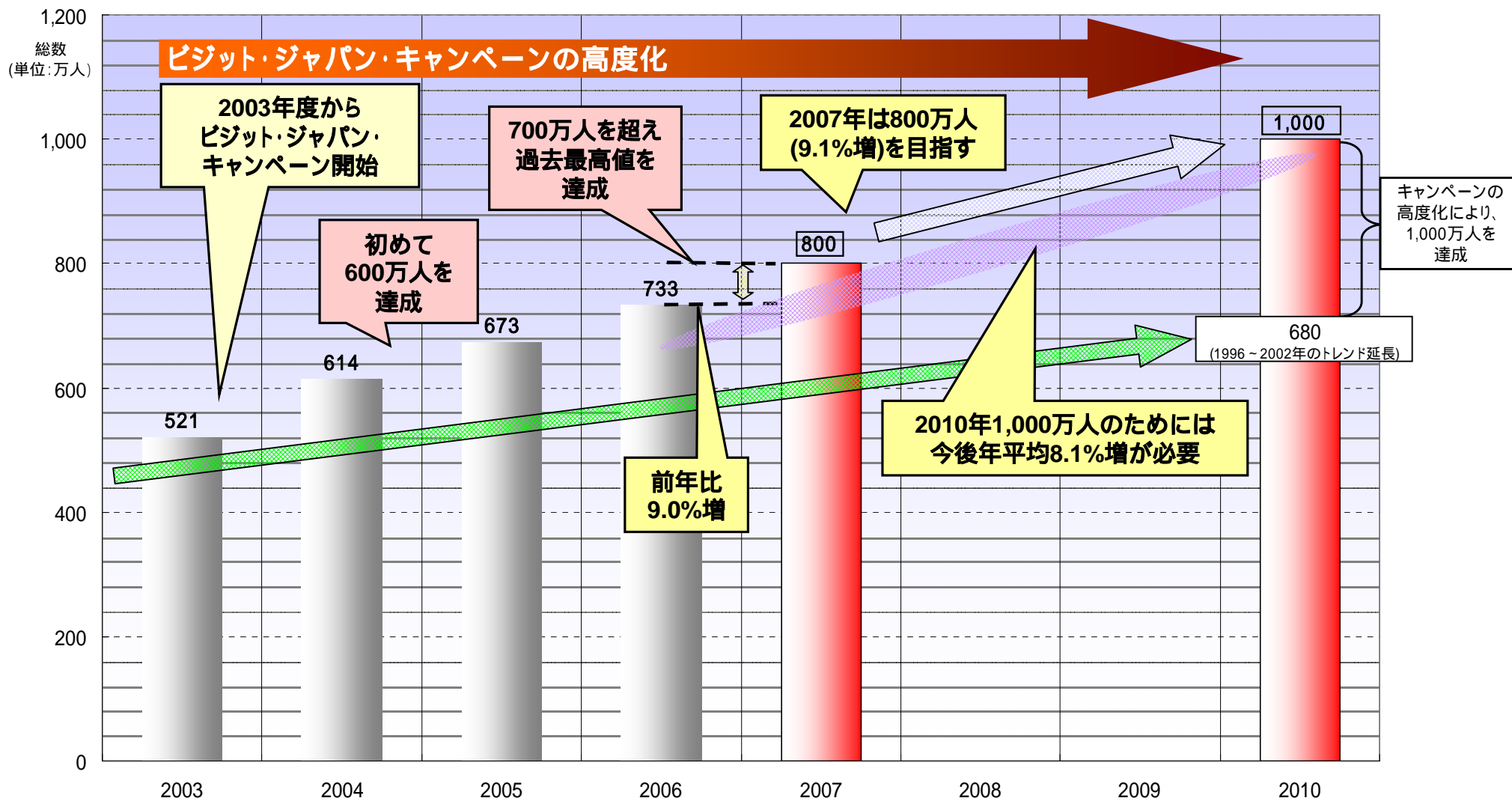
ニューツーリズムの潜在需要

新たな旅行形態「ニューツーリズム」に関し、大きな潜在需要



資料) レジャー白書平成16年

2010年訪日外国人旅行者数1,000万人達成へのロードマップ

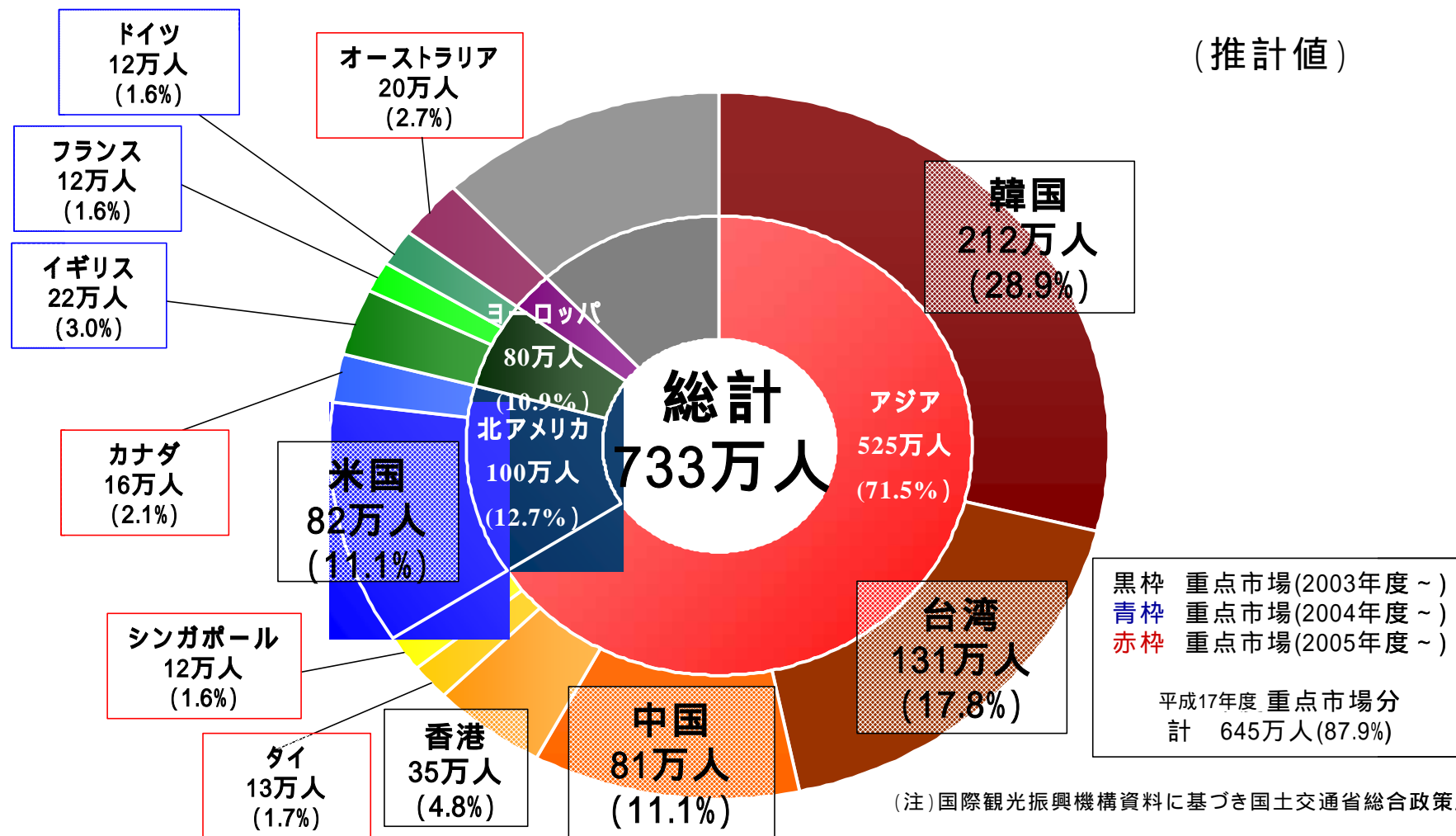


2006年までのデータ出典: 国際観光振興機構

訪日外国人旅行者の割合

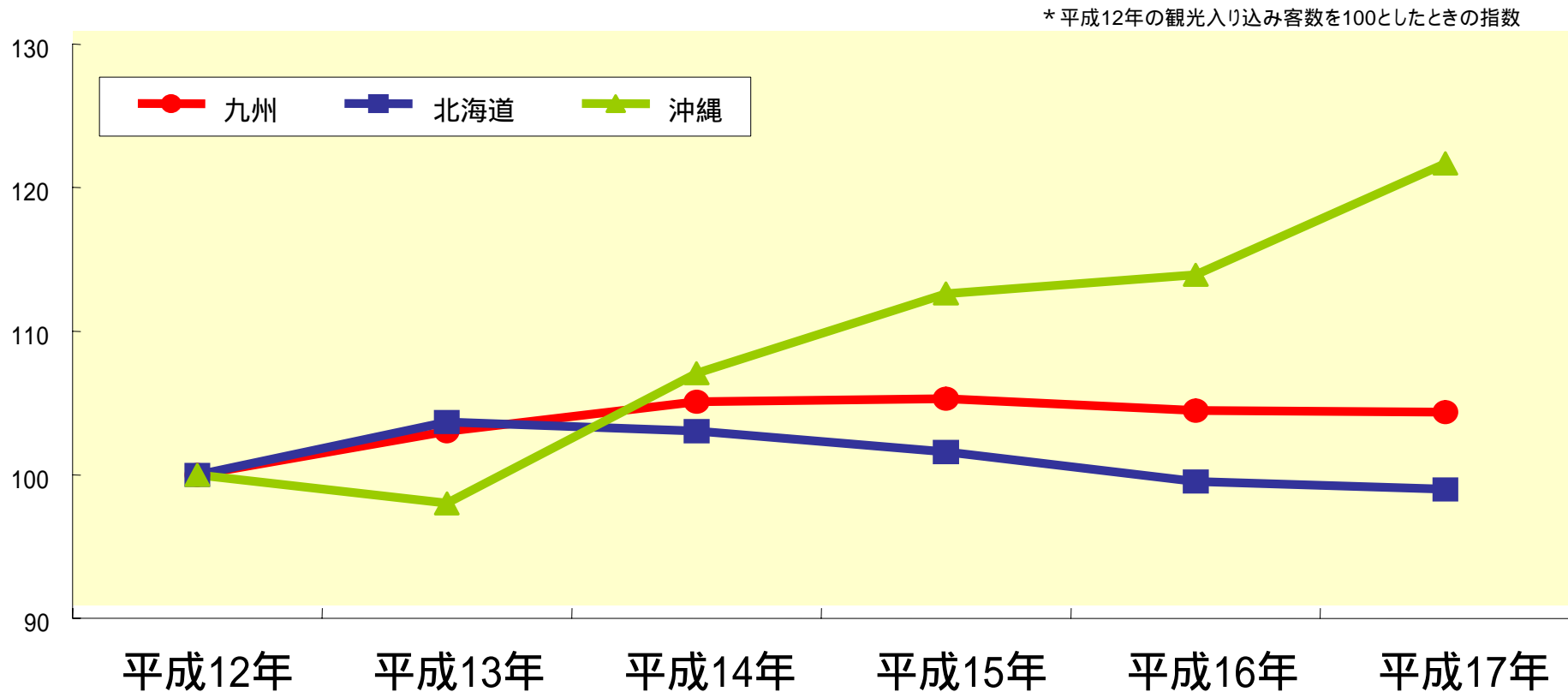
訪日外国人旅行者の割合(平成18年)

(推計値)



九州・北海道・沖縄の観光入込客数の推移

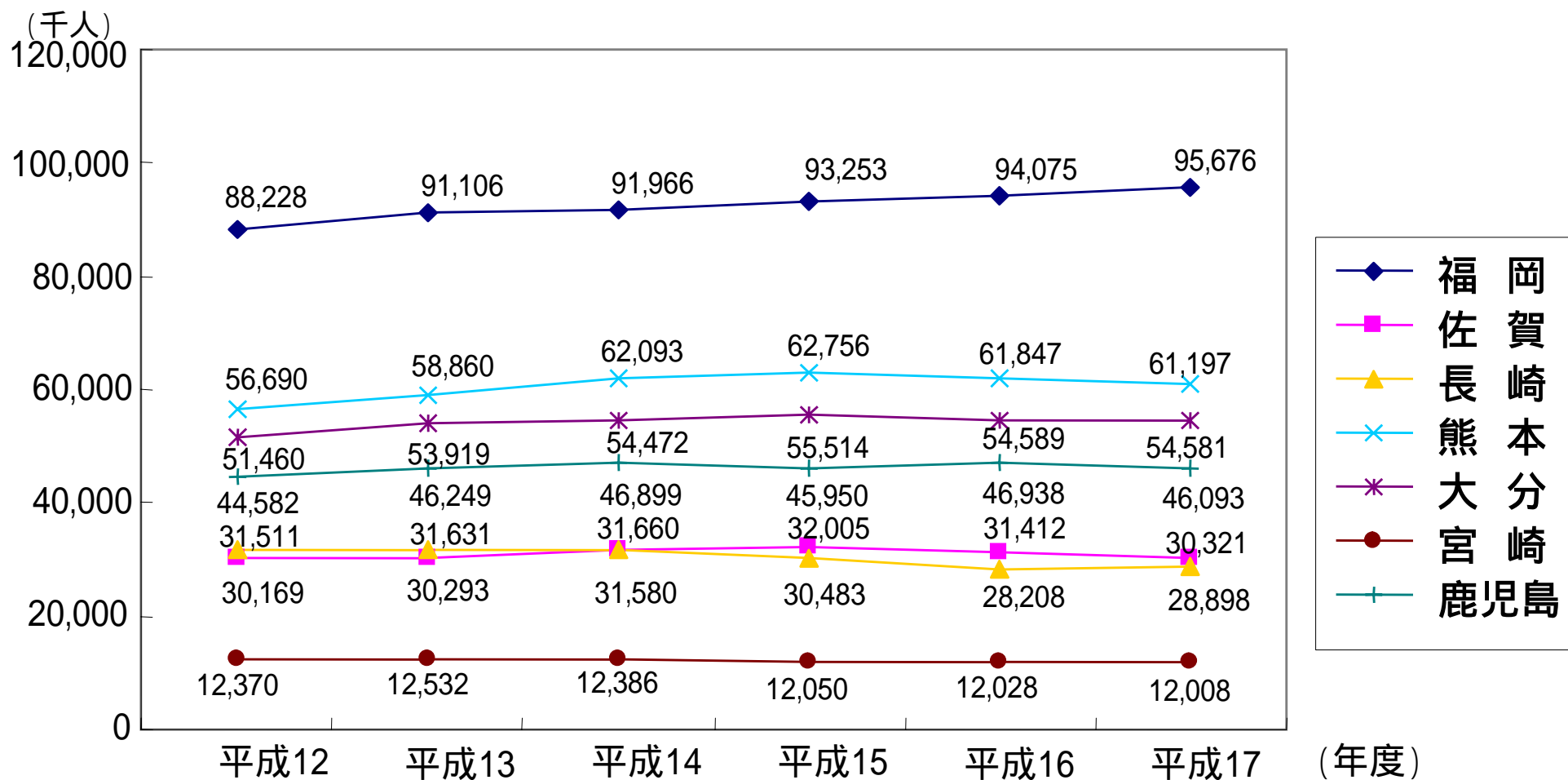
九州の観光入込客数は伸び悩み



資料) 各県観光統計

九州県別観光入込客数の推移

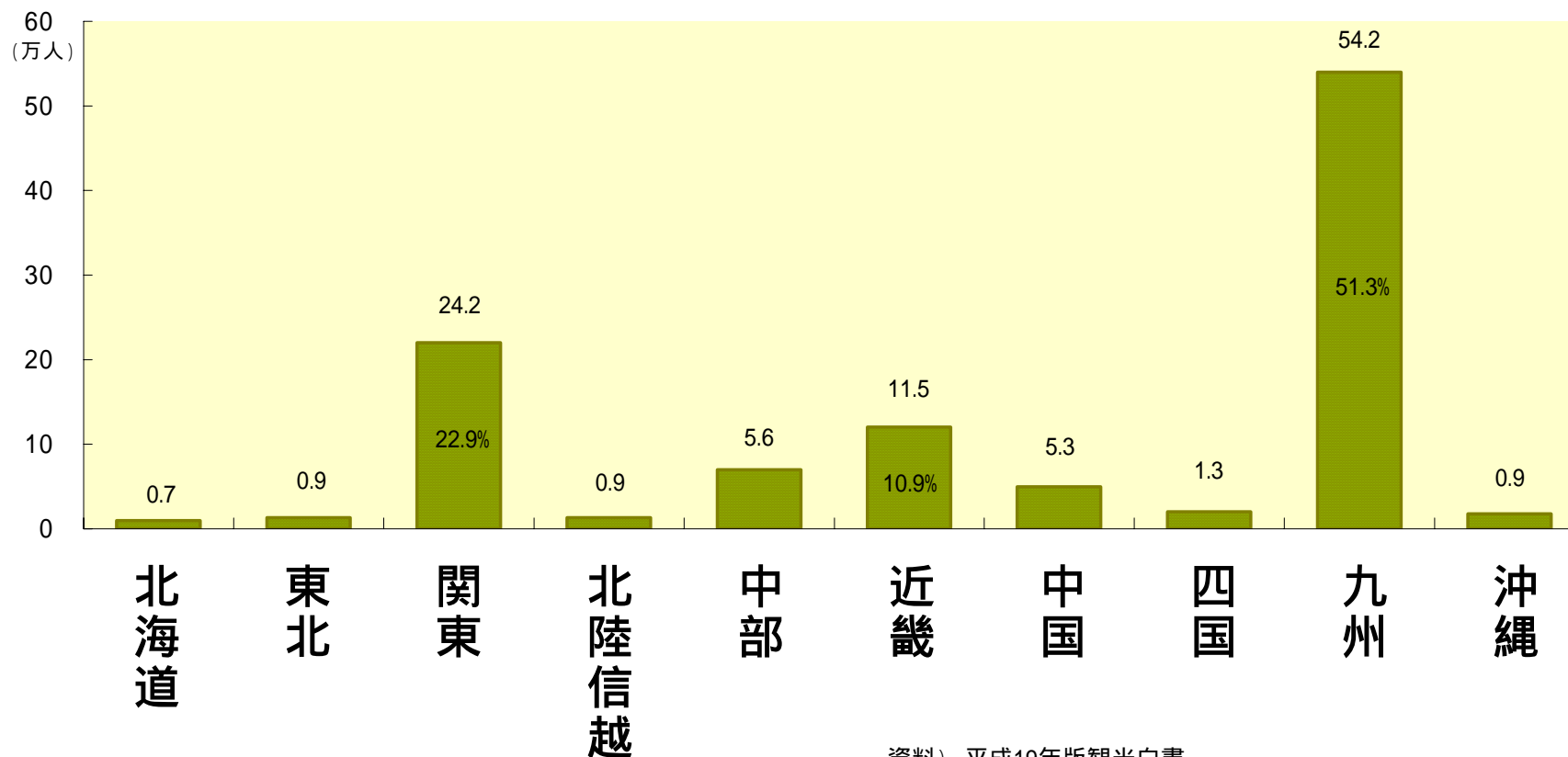
福岡県は堅調に増加しているが、他の6県は概ね横ばいに推移



注) 各県観光主管課の資料により作成
各県の統計手法は異なるため、他県との比較は適切ではない。

九州ブロックへの宿泊旅行の流動状況

九州域内からの旅行者が過半数を占めている。関東、近畿からの旅行者も多い。

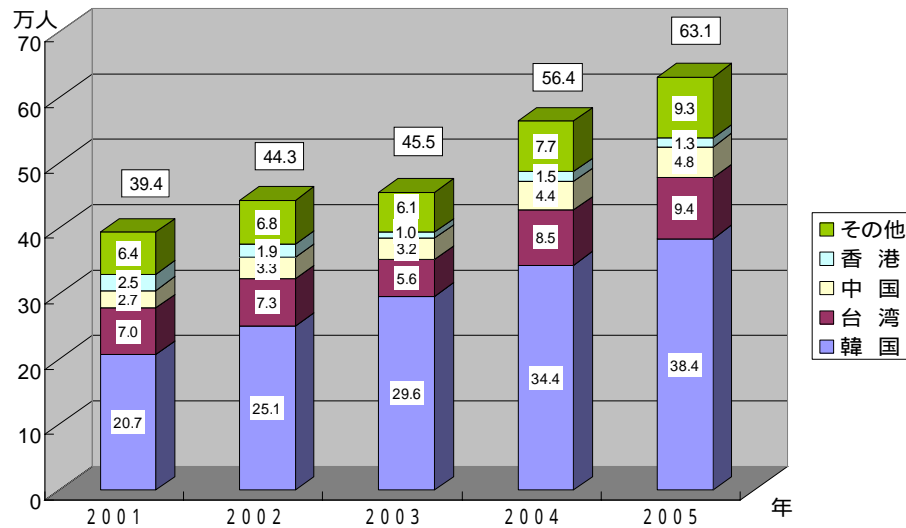


資料) 平成19年版観光白書

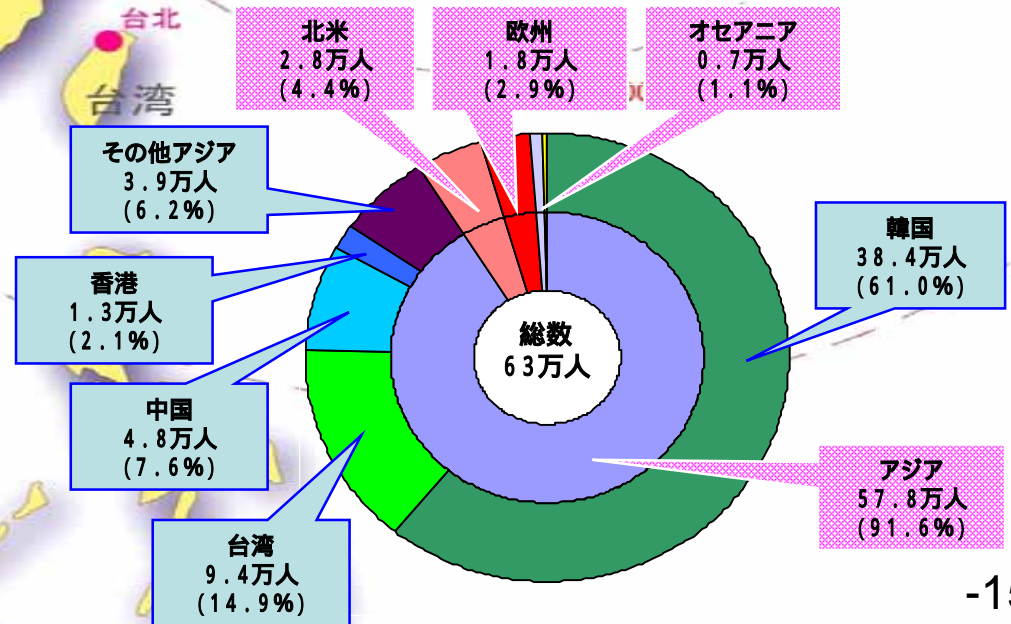
注) 居住地別宿泊者数に基づく地域ブロック内及びブロック間の流動を示すもの。

九州への外国人旅行者数の推移

外国人入国者数の推移(九州)



外国人入国者の国・地域別の割合【九州】 (2005年)

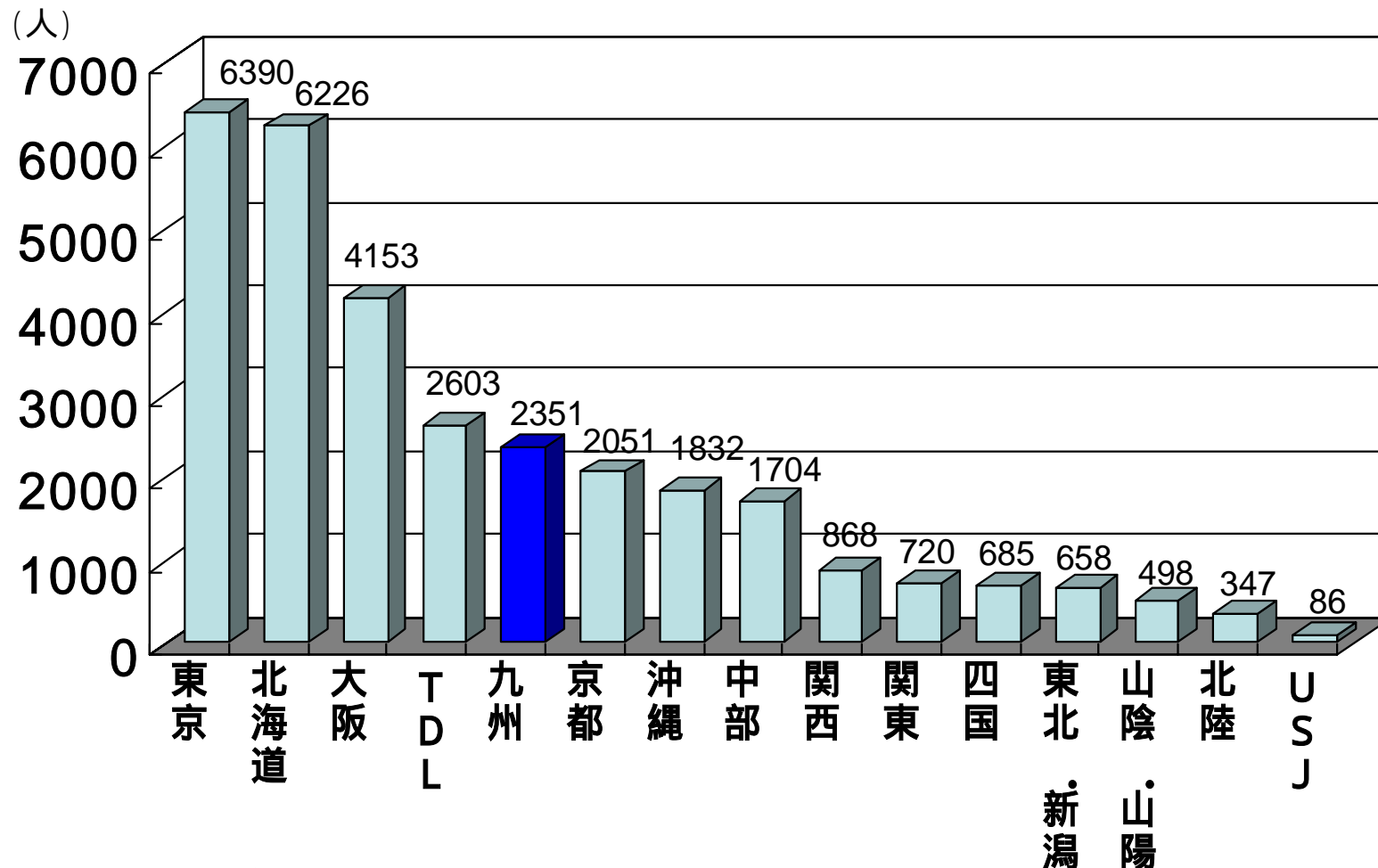


九州は、東アジアに近い(地理的優位性)
九州への外国人旅行者の9割以上がアジアから

九州運輸局は主として
東アジアを重点市場とする観光振興策を展開

東アジア4カ国における訪問希望先

東アジア4カ国（中国・韓国・台湾・香港）では、九州は観光の目的地としての認知度が低い。

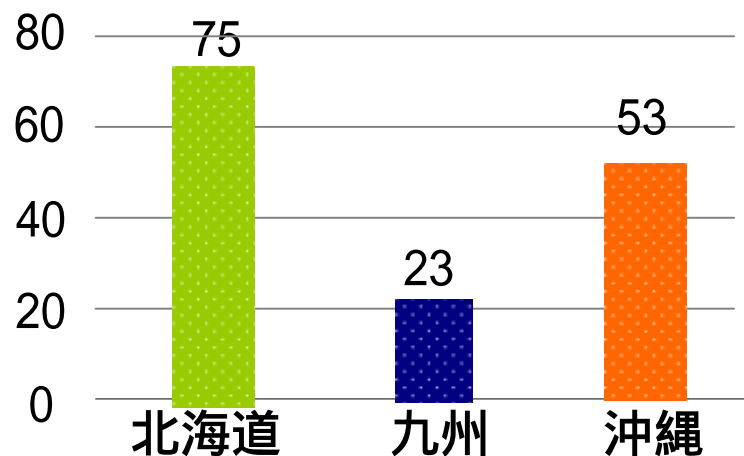


資料) 国土交通省「東アジア四カ国の日本の訪問希望地アンケート調査」(H15.3)

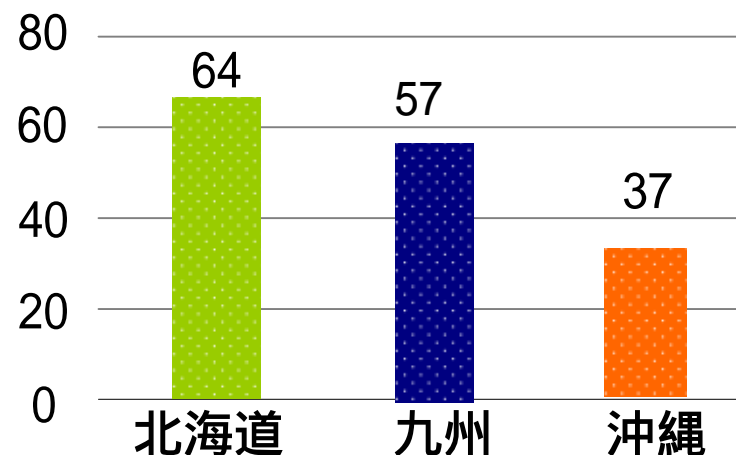
首都圏女性の九州観光に対するイメージ

九州は観光イメージの発信力が弱い。

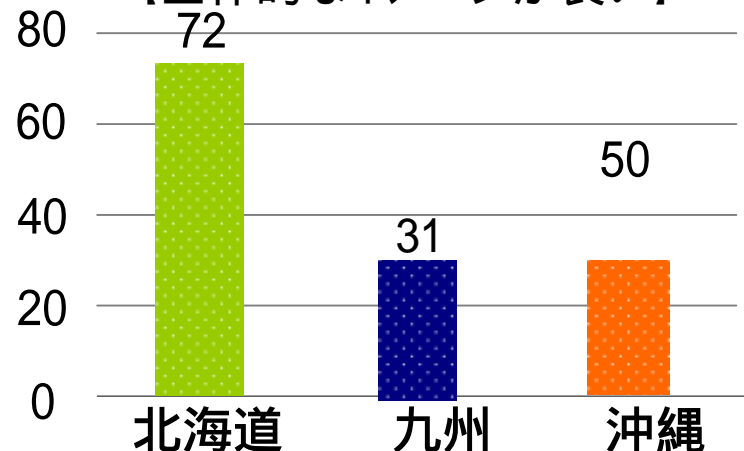
【TVや雑誌でよく見る】



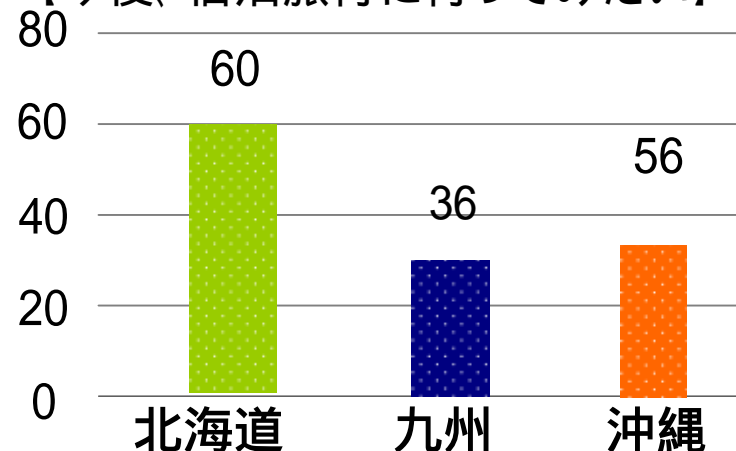
【旅行費が安いと思う】



【全体的なイメージが良い】



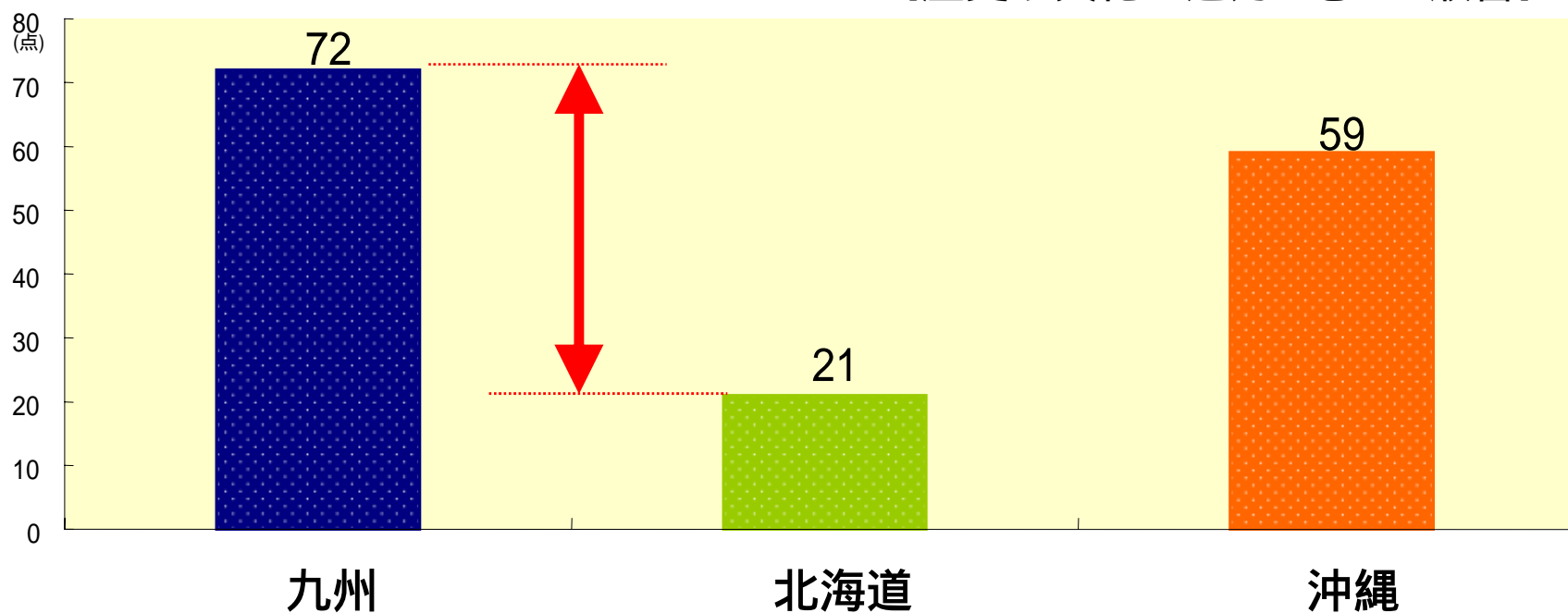
【今後、宿泊旅行に行ってみたい】



九州・北海道・沖縄のイメージ比較

歴史・文化的な魅力では、九州のイメージ評価が高い。

【歴史や文化に魅力を感じる順番】



資料) 財団法人九州経済調査協会「平成15年版九州経済白書」